

2016年
新春号
Vol.15

幸義会だより

岡山東部脳神経外科



岡山東部脳神経外科病院の開設と東備クリニックの再編について

理事長 滝澤 貴昭

平成27年12月1日から岡山東部脳神経外科の二つの有床診療所を統合して、38床の岡山東部脳神経外科病院と外来・介護サービスに特化した岡山東部脳神経外科東備クリニックに再編されました。入院病棟が一元的に管理できるため、いままではしばしば満床のために救急患者様の受け入れをお断りせざるを得なかった事情が改善されるものと思われまます。また夜間も医師・放射線技師・看護職員など常に6〜7人勤務体制が敷けるためリスク対応も向上するものと思われまます。東備地域の患者様の入院に際しては、若干距離が遠くなりご不便をおかけし申し訳ありません。

さて、なぜそもそも有床診療所を開設し、さらに二つにしたのか尋ねられることが多いので、説明させていただきます。現在は、大学医学部を卒業した後ただちに自分で研修病院を探し、その後の就職先も比較的自由に選択するようになりました。これは約10年前から始まった医師臨床研修制度の義務化によるもので、研修医の自己努力による研鑽をうながし幅広い臨床能力を養うことが目的とされ、現実的に最近の若い医師達は一様に大変優秀で、頼もしく育っています。私が岡山大学を卒業した昭和55年には、全国的にもほとんどの人が出身大学か、出身地の大学医局に入局することが常識でした。私は最初から民間の救急・脳外



科専門病院で経験を積み、同年輩の脳外科医達と比較すると何倍もの手術を経験、また難しい技術も早くから習得でき脳外科医として自信を持つことができました。さらに昭和63年から小説・TV「下町ロケット」に登場するような技術力の高い町工場のな会社と共同で研究開発した脳外科手術ナビゲーション装置は国内外にて注目され、国際学会での高い評価も得られることになりました。平成7年に画像処理ソフトが完成し、さらに臨床応用を進めたいと考えていました。そんななかで雇用される立場では自分の理想とする医療ができないと考えて開業を考えるようになりました。一般的には高度な手術をする脳外科を開業して成功することは大変難しいと考えられておりましたが、自分の経験を地元に戻って生かしたいという強い思いと、前任地にて一年間一緒に働いた南先生との出会い、ナビゲーション装置への思い入れなどが重なり有床診療所として開業する決意をしました。南先生と出会わなければ、夢をあきらめて無床クリニックを開業していたことは間違いないと思います。ところが昭和63年の医療法改定後、20床以上の病院は事実上新規開設が禁止されており、診療報酬は低い代わりに比較的緩やかな規制がない19床の有床診療所の開設となりました。幸い、大学の同級生で、当時岡山大学麻酔科講師であった五藤先生が、大学の仕事が終わった後、あるいは休日に駆けつけて麻酔をかけてくれたので、難しい脳腫瘍や脳動脈瘤の手術もできました。最初の数年間は予定手術がすべて平日夕方・土曜午後開始または日曜祝日という状態でした。深夜の緊急手術も、大学麻酔科の数人の先生が交替で駆けつけてくださり、麻酔の先生も、南先生や私もわずかな仮眠の後、翌日の勤務に移行するという状況でした。まさに一年365日休みなく突っ走ってきましたが、地道な努力と断らない救急医療のストーリーの物語に、地道な努力ができてきたころ、さらに複数の優秀な脳外科医が私たちの理念に賛同して集結してくれることになりましたので、キャパシティの限界を考慮して二つ目の有床診療所を開設しました。私には経験のなかった新しい手術技術を持った医師なども集い、さらに脳外科専門施設として充実してきました。岡山クリニック開設の3年後に、岡山県により脳卒中地域医療連携の急性期を担う医療機関を実態に応じてランク分けしホームページに掲載されました。当院では岡山クリニックがA（14機関）、東備クリニックがC（13機関）となり、全医療機関41施設のうち病院ではなく診療所というのは当院のみという現実でした。またこの頃から、複数の新聞社が作成した「いい病院シリーズ」などで難易度の高い手術の



年間件数などが報じられるようになり、医療機関が選ばれる時代となりましたが、当院は初年度から常に中国のランキングに掲載されるようになっていきました。このような時代的な運も重なり、実績が認められて、全国的にも稀有な有床診療所の合併による病院化が実現しました。平成10年の開設時の常勤職員25名のうち、いまだに10名が残ってくれています。15年の岡山クリニック開設当時の職員の約3/4は今も働いてくれています。私の理念に賛同し、地域医療に貢献することを幸せに感じられる職員に恵まれたことを大変幸せに思っています。今後、東備クリニックは今までどおりの外来診療体制を継続し、またデイサービス「歩夢」も同様ですが、広がりハビリアを改装して介護保険でのリハビリに特化した通所リハビリ・デイケアを始めます。医療保険でのリハビリが制限される中で、より利用者様のニーズに応じたりハビリアや体力強化に努めたいと思います。また二階の病棟閉鎖後の施設を利用して、いつか来た道・レトロな昭和の町のイメージを再現することにより認知症予防につなげていきたいと考えていますので、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

有床診療所という名前はあまり聞いたことがない方も多いと思いますが、入院できる人数などに制限があるため、今まで皆様にご迷惑をお掛けすることも少なからずあったと思います。しかしこの度病院になるにあたり新病棟も増築され病院スタッフの増員も行われており、より一層地域のニーズにお応えできる体制を構築することができると考えております。また外来ではMRIが2台体制となり、外来などでの検査の待ち時間の短縮が期待されます。脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳卒中や認知症など、今後ますます皆様に対して当院がお役に立てる場面は増えてくると思います。今回の新体制への移行でより一層の対応力強化を行うとともに、職員一同志を新たに皆様のお役に立てるよう努力していきます。所存ですので、よろしくご厚意申し上げます。



ご挨拶
岡山東部脳神経外科病院 副院長 宮崎 修平

新病棟のご案内

看護師長 兼平 浩二



新年明けましておめでとうございます。昨年12月1日より診療所から病院となり、二つの診療所病棟が統合され、一つの新病棟として...

ただ、病院となり一つだけ問題があります。開院と同時に電子カルテ導入です。テレビや大病院では見かけたこともあり、ちよつとカッコイイ!!なんて思ったり、これまでの伝票書きや事務作業が大幅に減少し楽になる!!なんて安易に期待してたのですが、大きな誤算でした。...



デイサービスセンター歩夢 作品

患者様と向かい合う時間を電子カルテ導入以前より作ることに努め、問題に対し一緒に戦わせていただきたく思っています。今後も病院として生まれ変わって新病棟をよろしくお願ひします。

研修医

医師 船橋 卯



昨年11月、地域医療研修にてお世話になりました初期研修医の船橋卯です。私は東京都新宿区...

生まれで、小学校以降は練馬区で育ちました。城北高校を卒業し、その後すぐに都内の工学部に進学したものの一年足らずで退学しました。当初、退学の理由は医学部を目指したためではなく、高校の同期が優秀に進学していったことが羨ましいというどうしようもない理由からでした。...

新職員挨拶

検査部 小川 浩司



10月より、臨床検査技師として勤務させて頂いております。小川浩司と申します。

等々の生理検査を通して、患者様と接する機会が多く、緊張感と共にやりがいを感じています。少しでも早く業務に慣れ、一人前の職員として患者様や職場に貢献できるよう、努力をしていきます。

理学療法士 大島 佐枝



昨年10月26日に入職致しました理学療法士の大島佐枝と申します。以前は津山市内の回復期病院で5年間勤務...

していただきました。身体を動かすことが好きでランニングや山登りをします。今年も近所の低山から日本アルプスの山まで色々な山に登りたいと思います。登山に興味がある方、経験者の方は是非一緒にしたいです。声かけ下さい。至らない点やご迷惑をおかけすることもあると思いますが精一杯努力しますのでよろしくお願い致します。

医師 地引 輔



みなさま初めまして。平成27年に東海大学医学部を卒業後、神奈川県横浜市にあるけいゆう病院にて研修医として就職しました。12月からは地域医療研修のため、岡山東部脳神経外科にて研修をさせて頂いております。

私は千葉県出身で、今まで関東圏でしか生活をしてきたことがなく、岡山県に来ること自体初めての経験となります。そのため、まだ右も左もわからない様な状況なので、どこかみなさまのおすすめの場所や岡山の良いところを教えてくださいたいです。



平成27年11月末日アークホテルにて、岡山東部脳神経外科病院開設記念夕食会を行いました。御来賓の方々もお集まりいただき、職員一同大変盛り上がりしました。

岡山東部脳神経外科病院開設記念夕食会



産休育休明け

言語聴覚士 土井 智子



この度1年間の産休育休をいただき、10月に復帰いたしました。休暇中はずっと楽しく、貴重で有意義な時間となりました。休職を頂きましたことを心より感謝しております。

復職前はプランクを埋められるかとても不安で、勤務開始日は新入社員のような心持で出勤しました。初めの3日間はとても緊張して頭痛がしましたが、少しずつ慣れてきました。今後も御迷惑をおかけしますが、宜しくお願いいたします。